耳鼻咽喉科

コロナとインフルエンザ、同時接種が可能になりました

インフルエンザの予防接種

お答え
佐藤耳鼻咽喉科
佐藤孝至 院長

■プロフィル 愛知医科大学を平成元年卒業。広島大学病院・耳鼻咽喉科、県立広島病院・耳鼻咽喉科、市立三次中央病院・耳鼻咽喉科などの勤務を経て、愛知学院大学歯学部准教授ならびに歯学部附属病院・耳鼻咽喉科科長などを歴任。平成28年9月から佐藤耳鼻咽喉科医院院長。日本耳鼻咽喉学会専門医、博士(医学)
〈メモ〉 ☎084(921)1678
(御船町1-11-11)
http://satoent.jp/hospital/

「佐藤耳鼻咽喉科」の佐藤孝至院長に、今年度のインフルエンザの予防接種について聞きました。

Q 今年、インフルエンザは流行しますか。

A 新型コロナウイルス感染症（COVID―19）のパンデミックによって、日本への外国人・入国者数の激減に加えて、日常生活におけるマスクの着用とアルコールによる手指衛生の徹底により、近年日本ではインフルエンザの大流行がありませんでした。しかし、今年も流行しないという保証はありません。

逆に、2年ばかりインフルエンザの流行がなかったため、日本国民の中には十分な免疫を持っていない人がいると推察され、その反動で大流行する可能性もあります。そして最も懸念されるのが、新型コロナウイルス感染症（第8波）とインフルエンザの同時流行です。

Q インフルエンザの予防接種を受けたほうがいいということですね？新型コロナの予防接種もしたほうがいいですか。

A 数年前から、ワクチンで予防できる感染症は、ワクチン接種をして予防するというのが時代の主流となりました。現在、新型コロナウイルスに対するワクチン接種が進んだことで、全国の新型コロナウイルスの感染者数が減少しているのも、ワクチンの効果が大きいといえます。

新型コロナウイルス感染症も、ワクチンによる予防接種を第一選択とするよう推奨されていますが、インフルエンザに関しても同様です。

インフルエンザのワクチンは、生ワクチンではなく不活化ワクチンに該当しますので、これまでは新型コロナウイルスに対するワクチンとは2週間以上の間隔を空けなければ、接種不可とされてきました。しかしながら、今年の10月以降は、安全性が確立されたとして、新型コロナウイルス・ワクチンとインフルエンザ・ワクチンの同時接種が可能となりました。

どんなワクチンにおいても、副反応が出現する可能性はありますが、新型コロナとインフルエンザの同時流行を防ぐためにも、早めの対処が必要です。お手元に新型コロナワクチンの接種券をお持ちの方は、自治体が設置している新型コロナワクチンの大規模接種会場では無理ですが、診療所などの医療機関における個別接種では、新型コロナとインフルエンザの両方の予防接種が可能です。

この冬の感染症の流行に備えて、新型コロナとインフルエンザに対するワクチン接種ついて、検討されることをお勧めします。